

『錢氏家訓』試訳

——『吳越錢氏』の現代的意義について——

池澤 滋子

吳越国(九〇七年—九七八年)は中国・五代十国時代に現在の杭州を中心に浙江省と江蘇省の一部を支配した国である。本稿はその初代国王錢鏐の子孫一族であり、現在なお中国はじめ世界に多くのすぐれた人材を輩出している吳越錢氏一族の間に伝わる『錢氏家訓』の日本語訳を試みたものである。

一、現代に活躍する吳越錢氏の子孫達について

* 錢鉄民、錢志仁著『錢氏家訓』解説 引言

(『吳越錢氏』第二期二〇〇九年八月)より訳出

先ごろ、錢氏一族に大きなニュースがもたらされた。そのひとつは、昨年(二〇〇八年)十月にスウェーデンの王室科学院によって、三名の科学者の二〇〇八年ノーベル化学賞の受賞が発表されたが、その一人が中国系アメリカ人の科学者錢永健¹⁾氏であった。彼は、緑色蛍光タンパク質の分野の研究に優れた貢献をし、「細胞生物学と神経生物学」の分野に革命をもたらしたと評された。彼は日系アメリカ人の下村脩と、マーティン・チャルフィー、と共に、一千万スイスフラン(およそ一四〇万ドル)の賞金を分けた。また復旦大学教授の錢文忠は、

二〇〇九年の中央電視台の『百人の講師による講義』という番組のその年の初回到壇して講義を行った。彼は『三字経²⁾』の解説³⁾を行い、同名の書が民主法制出版社から刊行され、初版で一〇〇万部が出回り、国内四番目の「百万部を売り上げたベストセラー作家」となった。いずれも錢氏一族にとって大変嬉しく誇らしいできごとである。

錢王三十四世の子孫である錢永健氏は、記者のインタビューに、自分の職業選択について、次のように述べている。「私は錢家の伝統を受け継ぐよう運命づけられて、この仕事に従事しました。」「この仕事」とは文化、科学教育を指している。錢永健氏の一家は多くのすぐれた科学者を輩出している。父の従弟は科学界の権威、錢学森氏であり、尊父錢学築氏はアメリカボーイング社のエンジニアで、叔父はマサチューセッツ工科大学の工学部教授であり、兄の錢永佑は著名な神経科学者であり、スタンフォード大学の生理学部の学部長を務めたこともある。兄弟はそれぞれアメリカの大学生にとって最も競争が激しい奨学金であるロードス・スカラーシップとマーシャル・スカラーシップを獲得した。さらに九〇年代にはそろって米国科学アカデミーの会員となった。

錢氏一族は五代の呉越国王錢鏐に始まり、その後宋に帰順したものの、依然として一族は繁栄し、人材を輩出している。歴史書には宋代三百年間「錢氏一族で朝廷に在籍する者は数えきれないほどおり、才能をもって称された者も枚挙にいとまがない。」と記載されている。清代の三元状元（郷試、会試、殿試の首席）の錢癸も、誠に一族の誇りである。ことに現代においては、国家や地方、世界や中国国内において、優れた功績をあげ、大きな貢献をした人々は大変に敬われている。中国人民政治協商会議の四名の副主席（錢学森、錢偉長、錢昌照、錢正英）や、世界にその名を知られる著名な科学者「三錢（錢学森、錢偉長、錢三強）」、中国の両院（中国科学院と中国工程院）の十四人のメンバー、世に称えられる国学の巨匠（錢玄同、錢基博、錢穆、錢鐘書）等は皆世界に名を知られた国際的学者である。

錢氏子孫はなぜこのように多数の著名人を輩出しているのか。多くの人々が錢氏一族には秘密の書や奥義があるのかどうか尋ねる。錢氏一族で科学者の錢偉長、錢鐘韓はメディアの取材を受けた際、二人とも偶然「錢氏の貴重な遺産―『錢氏家訓』に依った」と述べた。まことに、『錢氏家訓』は一族の貴重な文化遺産である。もし錢氏一族の繁栄、人材の輩出を保障する秘密の書があるとすれば、それはすなわち錢氏一族に伝わる家宝『錢氏家訓』であろう。

始祖呉越王錢鏐は家庭教育を重視し、晩唐五代の乾化二年（九一二）正月に『武肅王八条』を、のち長興三年（九三二）臨終の前に多くの子孫達に『武肅王遺訓』十項目を遺した。そして「家風を紹続し、礼教を宣明す（家風を継承し、礼教を重んずる家であることを高らかに宣言する）」ことをたびたび強調した。それから千年の蓄積と補完を経て、錢氏の子孫達は錢氏の平素の言動や歴代の先祖の教

えや戒めを記録整理して『錢氏家訓』に帰納し、代々伝えて家風を盛んにした。

『錢氏家訓』は短く、たった六三五文字であるが、内容は深く、豊かである。古代において一族を繁栄させたばかりでなく、その恩恵は今日まで続き、未来へも発展するであろう。

二〇〇七年に『錢氏家訓』は無錫市文化局によって「無錫歴史文化遺産研究」の十項目の一つに選ばれた。

二、『錢氏家訓』訳

個人

【原文（訓読）】

心術不可得罪于天地、言行皆当無愧于聖賢。

（心術は罪を天地に得可からず、言行は皆当に聖賢に愧づること無かるべし。）

【訳】人間は、その考えや謀り事が天地の法則に悖ることがあつてはならない。その言動や行為が聖人賢人に恥じるものではないけない。

【原文（訓読）】

曾子之三省勿忘。程子之四箴宜佩。

（曾子の三省 忘ること勿かれ。程子の四箴 宜しく佩ぶべし。）

【訳】曾子（孔子の弟子曾参）の「一日に三省す」の教えを忘れてはいけない。程子（宋代の理学家程頤）が記した四つの戒めの文「視箴・聴箴・言箴・動箴」を敬い、実行しなければならない。

【原文（訓読）】

持躬不可不謹嚴。臨財不可不廉介。

（躬を持つこと謹嚴ならざる可からず。財に臨むに廉介ならざる可からず。）

【訳】 自らに対しては、慎重で厳格でなければならない。財物に対しては清廉で正直でなければならない。

【原文（訓読）】

処事不可不決斷。存心不可不寬厚。

（事を処するに決断せざる可からず。心を存すること寛厚ならざる可からず。）

【訳】 物事に対処するときには果断でなければならない。人に対する時には寛容で丁寧でなければいけない。

【原文（訓読）】

尽前行者地歩窄、向後后看者眼界寬。

（前行を尽くす者は地歩窄し、後ろを向いて看る者は眼界寛し。）

【訳】 前ばかり見て歩くものは、視野も狭くなる。後ろを振り返る者は見識が広くなる。

【原文】

花繁柳密處撥得開、方見手段。風狂雨驟時立得定、才是脚跟。

（花繁り柳密なる處に撥し得て開くに、方に手段を見はす。風狂ひ雨驟る時 立つを得て定むれば、才に是れ脚跟たり。）

【訳】 花が群れて咲き、柳が隙間なく生い茂る所に道を開くことが

できてこそ、才能を示すことができる。荒れ狂う風雨の中でちゃんと立っていられてこそ足元がしっかりと固まり、立場も堅固なものになる。

【原文（訓読）】

能改過則天地不怒、能安分則鬼神無權。

（能く過ちを改むれば則ち天地怒らず、能く分に安んずれば則ち鬼神権ひ無し。）

【訳】 過ちを改めることができれば天地の怒りはなかる。本分を守れば鬼神も手が出せない。

【原文（訓読）】

誦経伝則根柢深、看史鑑則議論偉。

（経伝を読めば則ち根柢深し、史鑑を看れば則ち議論偉なり。）

【訳】 経と伝とを熟読すれば基礎がしっかりとし、史籍を読めば見識が高くなる。

【原文（訓読）】

能文章則称述多、蓄道德則福報厚。

（文章を能くすれば則ち称述多し、道德を蓄えれば則ち福報厚し。）

【訳】 文章に長ずれば著作が豊富になり、道德を蓄えれば多くのよい報いがある。

家庭

【原文（訓読）】

欲造優美之家庭、須立良好之規則。

（優美の家庭を造らんと欲すれば、須からく良好の規則に立つべし。）

【訳】 幸福で立派な家庭を作ることが望むならば、必ず妥当で健全なさまりに則るべきである。

【原文（訓読）】

内外門閭整潔、尊卑次序謹嚴。

（内外の門閭は整潔たれ、尊卑の次序は謹嚴たれ。）

【訳】 外の通路や室内を整えて清潔に保ち、長幼の別を厳しく守らなければならない。

【原文（訓読）】

父母伯叔孝敬歡愉、妯娌弟兄和睦友愛。

（父母伯叔は孝敬し歡愉たれ。妯娌弟兄は和睦し友愛たれ。）

【訳】 父母や叔父叔母を敬い喜ばせ、嫁同士兄弟同士は仲睦まじくせよ。

【原文（訓読）】

祖宗雖遠、祭祀宜誠。子孫雖愚、詩書須誦。

（祖宗は遠しと雖も、祭祀は宜しく誠にすべし。子孫は愚かなりと雖も、詩書は須からく読むべし。）

【訳】 遠い祖先でも、必ず敬虔に祭るべきだ。愚鈍な子孫にも必ず経学を学ばせなければならない。

【原文（訓読）】

娶媳求淑女、勿計粧匳。嫁女択佳婿、勿慕富貴。

（媳を娶るには淑女を求め、粧匳を計ること勿かれ。女を嫁がせるには佳婿を択び、富貴を慕ふこと勿かれ。）

【訳】 嫁を取る時には、品徳の優れた女性を選ぶべきであり、外見で決めてはいけない。嫁にやる時には優れた才能と徳を持った婿を選ぶべきであり、財産に惹かれてはいけない。

【原文（訓読）】

家富提携宗族、置義塾与公田、歲飢賑濟親朋、籌仁漿与義粟。

（家 富めば宗族を提携し、義塾と公田とを置き、歲 飢へれば親朋を賑濟し、仁漿と義粟とを籌るべし。）

【訳】 家が富めば一族を助け、無料の学校や共有の田畑を経営し、飢饉の年には親戚や友人を助け、分配する食料を準備せよ。

【原文（訓読）】

勤儉為本、自必豊亨。忠厚伝家、乃能長久。

（勤儉を本と為せば、自ら必ず豊亨たり。忠厚を家に伝はれば、乃ち能く長久ならん。）

【訳】 勤勉と節約を基本とすれば、自然と豊かになる。忠義を尽くす家風を伝えていけば、一族は長く繁栄する。

社会

【原文（訓読）】

信交朋友、惠普郷隣。

(信もて朋友と交はり、恵もて郷隣に普ねくせん。)

【訳】 友と交わる時は誠実さを旨とし、広く郷里の人々に恩恵を与えなければならぬ。

【原文(訓読)】

恤寡矜孤、敬老懷幼。

(寡を恤れみ孤を矜れみ、老を敬まい幼を懷へ。)

【訳】 寡婦や孤児をを憐れみ、老人に尊敬を払い子供を大切にせよ。

【原文(訓読)】

救災調急、排難解紛。

(災を救ふは急を調くし、難を排するは紛を解かん。)

【訳】 災害の救済には急を要するところにあたり、危難を脱するに
はもめ事を仲裁せよ。

【原文(訓読)】

修橋路以利人行、造河船以濟衆渡。

(橋路を修めて以て人行に利し、河船を造りて以て衆渡を濟はん。)

【訳】 橋をかけ、道路を整えて通行を便利にし、船を造って川を渡
るのを便利にせよ。

【原文(訓読)】

興啓蒙之義塾、設積穀之社倉。

(啓蒙の義塾を興し、積穀の社倉を設けよ。)

【訳】 初等教育を行う無料の学校を設立し、災害救援のための民間

の食料倉庫を設けよ。

【原文(訓読)】

私見尽要錘除、公益概行提倡。

(私見は尽く錘除を要し、公益は概ね提倡を行へ。)

【訳】 個人的な偏見を除去し、公益ならば積極的に施行せよ。

【原文(訓読)】

不見利而起謀、不見才而生嫉。

(利を見て謀を起さず、才を見て嫉みを生ぜず。)

【訳】 利益を追求しようとしてはいけない。他人の才能に嫉妬して
はいけない。

【原文(訓読)】

小人固当遠、断不可顕為仇敵。君子固当親、亦不可曲為附和。

(小人は固より当に遠ざくべくも、断じて顕らかに仇敵を為す可
からず。君子は固より当に親しむべし、亦た曲げて附和を為す可からず。)

【訳】 小人とは当然距離を置くべきではあるが、しかし公然と敵対
してはいけない。君子とは当然親しく交際すべきではあるが、原則を
曲げて附和雷同してはいけない。

国家

【原文(訓読)】

執法如山、守身如玉、愛民如子、去蠹如仇。

(法を執ること山の如く、身を守ること玉の如く、民を愛すること

子の如く、蠹を去ること仇の如くせよ。）

【訳】法は山のように揺るぎなく執行せよ、節操はしっかりと守り玉のようにわずかな傷も無いようにせよ。民は我が子のように愛し、悪人は仇敵のように憎んで除去せよ。

【原文（訓読）】

嚴以馭役、寬以恤民。

（嚴を以て役を馭せ、寬を以て民を恤め。）

【訳】部下を働かせるには嚴格さをもってあたり、民をいつくしむには寛容さをもってあたれ。

【原文（訓読）】

官肯着意一分、民受十分之惠。上能喫苦一点、民沾万点之恩。

（官 肯へて一分に着意せば、民 十分の恵を受けん。上 能く苦一点を喫せば、民 万点の恩に沾はん。）

【訳】官吏が少し気づかいをすれば、民は多くの利益を得ることができる。君王が少し我慢をすれば、民は多くの恩恵を受けることができる。きる。

【原文（訓読）】

利在一身勿謀也、利在天下者必謀之。利在一時固謀也、利在万世者更謀之。

（利の一身に在るを謀る勿かれ、利の天下に在る者は必らず之を謀れ。利の一時に在るは固より謀れ、利の万世に在る者は更に之を謀れ。）

【訳】自分だけの利益ならそれは追求してはいけない。万民の利益になるならば、追求せよ。一時の利益であっても追求すべきだが、長い歳月にわたって利益が得られるものならなおさら追求すべきである。

【原文（訓読）】

大智興邦、不過集衆思。大愚誤国、隻為好自用。

（大智 邦を興すは、衆思を集むるに過ぎず。大愚 国を誤つるは、隻だ好んで自用する為めなり。）

【訳】才能が抜きん出た者は国を盛んにするが、それは大勢の知恵を集めたからである。愚かな者は国をだめにするが、それは自分の好みばかり行うからである。

【原文（訓読）】

聰明叡智、守之以愚。功被天下、守之以謙。勇力振世、守之以怯。富有四海、守之以謙。

（聰明叡智、之を守るに愚を以てせよ。功天下を被ふに、之を守るに謙を以てせよ。勇力世に振ふに、之を守るに怯を以てせよ。富有四海に有りて、之を守るに謙を以てせよ。）

【訳】聡明で知恵に長けていても、自分は愚かであるという態度であれ。功績が抜きん出ても、遠慮した態度であれ。勇猛果敢であっても、臆病者であるという態度であれ。大金持ちであっても、謙虚で礼儀正しくあれ。

【原文（訓読）】

廟堂之上、以養正氣為先。海宇之内、以養元氣為本。

（廟堂の上、正気を養ふを以て先と為す。海宇の内、元気を養ふを以て本と為す。）

【訳】朝廷においては公明正大な気概が大切である。社会においては活気が大切である。

【原文（訓読）】

務本節用則国富。進賢使能則国強。興学育才則国盛。交隣有道則国安。

（本を務めて用を節すれば則ち国富まん。賢を進めて能を使えば則ち国強し。学を興し才を育つれば則ち国盛んならん。隣と交はること道有れば則ち国安からん。）

【訳】財政の大本を盛んにし節約を旨とすれば国の財政は富み、能力のある賢人を抜擢すれば国は強くなり、学問を奨励して人材を育成すれば国は栄え、隣国と正しく交流すれば国は安定する。

三、『吳越錢氏』の現代的意義について

* 錢宗保著『吳越錢氏』的現代的意義（『吳越錢氏』第十二期）より訳出



昨日錢復氏（一九三五—中華民国の外交部長等を歴任）が上海文匯

講堂にお見えになり、『今世紀における世界的ジレンマ、中国の伝統文化を参考に』という優れた見解をご報告になった。さらに俞新天氏

（一九四七—国際政治学者）と公開討論会を行い、我が中国伝統文化

の現代における意義を詳述された。本日上海社会科学学院の主催によって錢復氏と共に座談会を行うことができたことはまことに光栄なことであった。吳越文化は中華伝統文化の一部であり、輝く光である。吳越錢氏の子孫達は一千年以上の栄光の歴史を刻んでおり、それは社会に広く認められているところである。

吳越国武肅王が建国して以来、民衆を国家の根本とし、できる限り戦争を避け、領土に百年近くの相対的に安定をもたらした。武肅王は遺訓の中で、「十四州の人民こそが吳越の基本だ」と述べ、人民の経済力を回復発展させて、東南沿海地区を栄えさせたのである。ゆえに蘇軾は「治安が安定し、戦争を知らずに一生を終えることができる」と評したのである。そして後に宋の高宗が臨安に遷都の基礎を築き、また今日の「天下に名だたる蘇杭」及び東南沿海地区の繁栄の基礎を築いたのである。古代において、統治者は「牧民」政策（民を農耕牧畜の労働力とする。）を取ったが、武肅王は五代という動乱の時代であったにもかかわらず、「民本」政策（民を国家の基本とする）を取った。これは王の進歩的な高く評価される側面であり、後世にも多大な影響を与えたのである。

武肅王は国家の統一を主張し、五代の動乱の中で、子孫に「もし中国の君主が異姓の者となっても、しっかりとお仕えるように」と教えられた。このことは千年余り前の君主に忠誠を尽くす封建社会において、情勢を推し量って、君主に忠誠を尽くすのではなく、国家と国民に忠誠を尽くすことを教えたのである。これは当時としても大変進歩的な考え方であり、今日においても現実的指導的意義をもっている。当然武肅王がこのような選択をされたのは痛みを伴うものであった。彼は遺訓の中で子孫に「余の心は唐の王室と共にある。ただ運命に逆

らわなかったのは、民の塗炭の苦しみを救いたかったからだ。：しかしこれは余が他人に言えない苦しみである。」と述べた。さらに子孫には「君主にどのくらいの徳が備わり、世の中の情勢に対応しているのかを見極め、もし真に頂いてよい君主であれば、速やかに帰順すべし」との訓戒を与え、「民が最も尊く、国家はその次である。戦乱を避けることが、民を大切にすることになる。」と説明された。忠懿王は祖先の意を報じて宋朝に領土を献上し、歴史的模範となられたのだ。これらの治国の教えは代々受け継がれ、今日の社会においても先進的な意義を有している。

武肅王の子供達に対する要求は厳しいものであった。彼は『八訓』と『遺訓』の中で多くの指導を行い、それらはとても親しみのもてるものである。忠懿王は日常生活の注に基づいて『家訓』を確立した。

我々錢氏は先王たちの恩恵を被りながら、先人の努力によって先王が「我が家訓を守れば、代々栄えるであろう」との予言を実現してきた。

特に現代社会において、軍事・政治、文化・科学技術の分野で錢氏は多数の人材を輩出している。たとえば科学技術の分野で著名な「三錢」のほかにも、中国の両院（中国科学院と中国工程院）の院士の数は人口比率から言って錢氏が最多である。エピソードとしては、一昨年令兄錢煦宗氏（一九三一— 生理学者）が上海にお見えなり、彼が『錢氏家訓』を英文に翻訳してお嬢様に与えたことに触れた。お嬢さんは、「ここで言われている内容は、平素父から聞かされている教之と同じです。」と言われた。このことからわかるように、我々錢氏の末裔は祖先の家法を自家薬籠中のものとしていくことがわかって。それで、清の高宗もそれを信じて「勛（つと）める哉 錢氏の族、百世家風を守るべし」と詩に詠じたのである。『錢氏家訓及び其の家

教の伝承」は昨年上海非物質文化遺産の名簿に入れられた。これは我々錢家の者にとつて励みになることだ。

（筆者注）この文章は錢漢東会長の求めに応じて『高峰論壇』上に発表したものである。

注

- (1) ロジャー・ヨンジェン・チェン Roger Yonchien T sien, 一九五二年—
- (2) 『千字文』等とならぶ、伝統的な中国の初学者用の学習書。
- (3) 『錢氏家訓』原文は錢文選輯『錢氏家乘』（一九二四年序）収録のものによる。また訳出にあたって参照したのは以下の文献である。張仲超『錢氏家訓』（線装書局、二〇一〇年）、牛曉彦『錢氏家訓』（北京理工大学出版社、二〇一二年）。また、錢宗保等主編『吳越錢氏』の第二、三、七、十一、十三期の関連する記事を参照した。